病院の実力 ＊兵庫編 101

血流確保 治療のカギ

心臓病

今回の「病院の実力」は、主に加齢や生活習慣病が原因で発症する「大人の心臓病」がテーマ。一覧表には、2015年に行われた手術や治療の患者数を掲載した。

心臓の冠動脈が狭くなる狭心症や、詰まって心筋が壊死する心筋梗塞は代表的な心臓病で、十分な血流を確保するため、冠動脈バイパス手術や心臓カテーテル治療が行われる。

バイパス手術は、詰まった部分に別の血管を縫いつけ、血液の迂回路を作る。カテーテル治療は、手首や足の付け根の血管からカテーテル（細い管）を挿入。狭くなった部分にステント（金網状の筒）を留置するなどし、血管を広げる。胸を切開することなく行えるのが特徴だ。

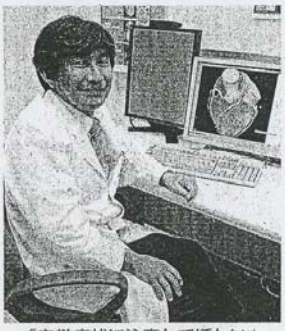
弁膜症とは、血液の逆流を防ぐ心臓弁の働きが悪くなる病気。十分に機能しなくなった弁を手術で切除して人工弁を入れたり、弁を縫い合わせて形を整え、機能を改善させたりする。

また、全身に血液を送る大動脈の一部がこぶ状に膨らむのが大動脈瘤だ。心臓近くの血管に発症したものを胸部大動脈瘤という。

血管が破裂すると命に関わるため、膨らんだ部分を切り取って人工血管に置き換える手術を行う。カテーテルを操作し、ステントグラフトという筒状の医療器具を大動脈瘤ができた血管に入れ、破裂を防ぐ治療を行う施設も増えている。

生活、栄養改善で予防

県立姫路循環器病センター　川合宏哉副院長



「自覚症状に注意してほしい」と話す川合副院長（県立姫路循環器病センターで）

県内トップクラスの心臓病手術件数を誇る県立姫路循環器病センター（姫路市）の川合宏哉副院長(56)に、狭心症と心筋梗塞について聞いた。　（新田修）

当院では、この二つの冠動脈疾患が大変増えています。患者は60歳代が多かったのですが、生活習慣病の増加により若年化し、近年は40、50歳代も目立ちます。高血圧や糖尿病、コレステロール異常の人がかかりやすく、予防、症状改善には生活習慣や栄養の改善が大切で、患者本人の意識が最も重要です。

治療では心臓カテーテル治療と冠動脈バイパス手術があります。カテーテル治療は胸の切開が不要で、入院期間を短くできます。一方、狭窄の病変が複数あったり、重要な部位にあったりするとバイパス手術が必要となり、特に糖尿病患者は重症で手術の頻度が高くなります。バイパス手術では一般に約3週間の入院になります。

体を動かす時に5～15分間の胸の圧迫感や締め付け感があると、狭心症が疑われます。30分～1時間続く冷や汗や耐え難い胸の痛みは、心筋梗塞の可能性が高くなります。

健康診断で指摘されても放置していて、発作を起こして運ばれる例もあります。命に関わるので、自覚症状や医師の指摘があれば、専門機関を受診してください。

病院の実力「大人の心臓病」

医療機関別2015年治療実績（読売新聞調べ）

医療機関名	冠動脈バイパス手術	心臓カテーテル治療	心臓弁膜症手術	胸部大動脈瘤手術・治療	胸部大動脈瘤手術・治療のうちステントグラフト治療
兵庫県					
県立姫路循環器病セ	74	586	129	123	46
西宮渡辺心臓血管セ	35	424	34	43	3
明石医療セ	26	481	86	68	9
赤穂市民	16	146	9	1	0
東宝塚さとう	15	804	63	99	42
県立尼崎総合医療セ※	11	465	41	43	18
県立淡路医療セ	11	257	26	15	4
姫路赤十字	11	156	23	2	0
川崎	0	349	0	0	0
地・神戸中央	0	279	0	0	0
ベリタス	0	257	0	0	0
回生会宝塚	0	196	0	0	0
市立加西	0	116	0	0	0
明和	0	107	0	0	0
関西労災	—	926	—	—	—
神戸大	—	216	—	—	—
大阪府					
国立循環器病研究セ	120	964	306	271	49
近畿大	74	365	70	65	31
大阪医大	52	349	75	57	18
大阪市立総合医療セ	46	484	96	59	26
桜橋渡辺	44	848	84	38	0
府立急性期・総合医療セ	34	625	81	91	41
関西医大	29	446	53	40	22
大阪労災	28	434	38	27	15
北野	28	117	18	19	9
大阪市大	27	241	141	46	16

「セ」はセンター。「地・」は地域医療機能推進機構。「—」は不明または無回答。※「県立尼崎総合医療セ」は昨年7月開業。統合前の県立尼崎のデータと合算。

＊全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。